

〈要約〉

就職活動の変化「保護者の取り組み方」

Change of job-hunting activities How depending on which a guardian tackles

桑原 賢二
Kenji Kuwahara

多くの保護者の皆さんは、終身雇用という労働携帯で働き続けてきたのではないだろうか。終身雇用とは、学校卒業後、一つの企業に就職して定年まで働き続けるというものであり、日本型経営の特徴である年功序列と年功賃金を伴い、定年まで安定した生活を約束するものであった。しかし、1990年代に入り、バブルの崩壊に合わせるようにこの強固なシステムも崩れてきた。

保護者の皆さんの時代には、会社に入れば手厚い研修制度で教育・育成してくれたが、今の時代は自ら学ぶことを要求される。昔も今も、働くこと自体にはそれほど差はないが、働き方に対する考え方を変える必要がある。最近の企業の求める人材像で最も多いのが「自ら考え、行動できる人」であり、この言葉にこれからの働き方が集約されているのである。

激戦が予想される就活、子供達の最大の味方でありサポーターであるのはやはり保護者の皆さんである。最も子供達のことを知っていて、なおかつ社会経験を積んだ大人の視点で、子供達の適性や表現力をチェックしていただきたいと考える。